

## 1. 目的

「多様な知識や考え方を繋ぎ、統合・融合し、新たな知や価値を創出する力」（＝「総合知を構築する力」）を、対話を通して楽しみながら育み、磨き合う学修システムを開発する。

＜喚起＞ ＜融合＞ ＜交歓＞ を鍵とする3つの取組、①『奈良カレッジズ学問祭』、②連携開設教養科目の共同履修、③『総合知育成コンクール“H<sub>2</sub>O”』を実施する。

「総合知を構築する力」をもち、それを発揮して、創造的に学校教育を変革できる教員と、日本社会のジェンダーバランスを是正できる女性リーダーを輩出する。

## 2. 問題意識とキーコンセプト

### 問題意識

1. 社会において「総合知」を活用するためには、まず「総合知」とは何かを明確化しなければならない。
2. 総合知を身に付ける学修を展開しなければならない。
3. それは、主体的・創造的に他者と協働し、楽しさや喜びをもって「身に付けていく」ものでなければならない。

### 導いたキーコンセプト

「総合知を構築する力」＝多様な知識や考え方を繋ぎ、統合・融合し、新たな知や価値を創出する力

- ＜喚起＞ ＝ 学術、文化、芸術等、様々な知的産物に啓発され、自身の知的世界が広がる喜びに気づくこと
- ＜融合＞ ＝ 自ら得た様々な知見を繋ぎ、統合・融合して自身の考えや世界観を深めること
- ＜交歓＞ ＝ 繋ぎ、統合・融合して創出した考えや価値、世界観を他者に対して表現し、交流・対話を通じて分かち合うこと

## 3. 目標（どのような力を育成するか）

### 1. ＜知識・技能的側面＞

個別の学びから得た多様な知識を繋ぎ、統合・融合させ、独自で幅広い考えや新しい価値を生み出し、他者に対して表現できる力を育成する。

### 2. ＜情意的側面＞

総合知を構築することを、他者との交流を通じ、主体的・創造的に楽しみながら取り組むことのできる力を涵養する。

## 4. 方法（どのように育成するか）

＜喚起＞ ＜融合＞ ＜交歓＞ を鍵とする3つの取組を実施する。

### 【取組1】

機構教員＋連携機関講師による講義、講義前後のスピノフ企画、学問祭レポート合評セッション、で構成する『奈良カレッジズ学問祭』の実施

### 【取組2】

2大学5学部の学生の共同履修による、対話を取り入れた連携開設教養科目の実施

### 【取組3】

優秀、ユニークな成果を募集し、対話によって交流し合う『総合知育成コンクール“H<sub>2</sub>O”』の実施

## 5. 実施体制（PDCAサイクル）

### Plan（計画）

両大学教職員によって構成される「連携教育開発センター」が立案する。

### Do（実施）

連携教育開発センター内に「総合知ギャラリー」を設け、両学の教職連携によって実施する。

### Check（評価）

受講学生による自己評価、取組に関わった教職員及び外部講師による評価、本機構のアドバイザーボードメンバーによるプログラム全体に対する評価、両大学FDによって総合的に行う。

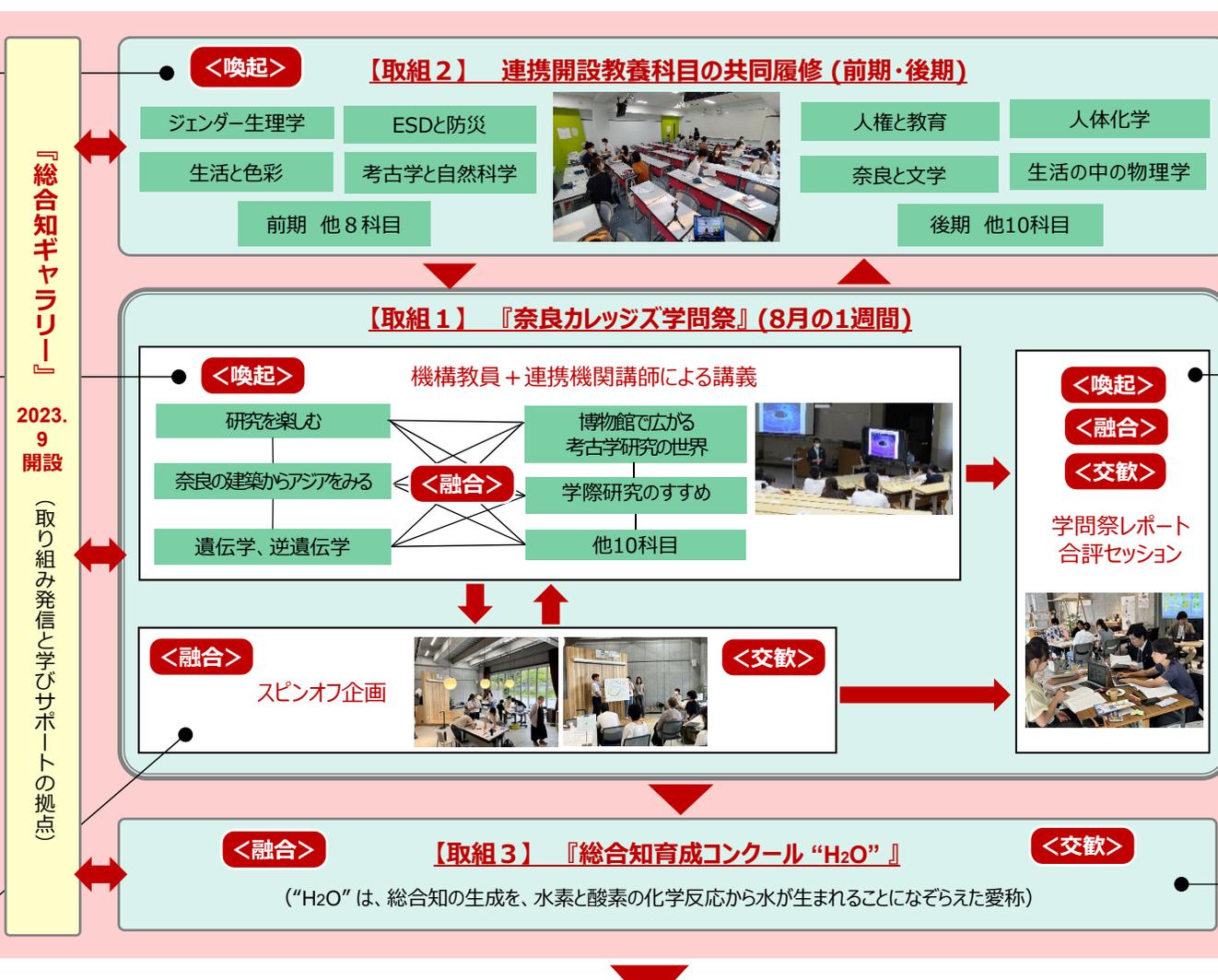
### Action（改善）

Checkの評価結果をもとに、連携教育開発センターによって次年度への改善を図る。

## 6. 社会的インパクト

1. 高校生に対して…大学での学びや「文理融合」の重要性を示す。
2. 高校教育・社会に対して…「文系・理系の分離」の是正を促す。
3. 他大学に対して…「総合知」の育成方法や教養教育の新しい在り方を示す。
4. 学生の就職先となる教育委員会や企業等に対して…本機構の教育を示し、産学官連携による人材育成の促進を加速させる。

- 両大学の教員が担当する
- 両大学学生が共同履修する
- 対話・アクティブラーニングを導入する
- 一部科目は市民も受講可能（オープンクラス）
- 両大学教員、機構アドバイザー、連携機関の研究者等が、奈良の伝統文化や芸術遺産、世界最先端の学術や研究の知見を提供する
- 両大学の学生や教職員、高校生、市民が受講する
- 学び得た知識を繋ぎ、統合・融合して生み出した新しい考えや価値をまとめたレポートを提出する
- 所定の科目数を履修することで単位取得が可能
- 講義の前後に、講演者と受講者が交流し、対話する
- 講演者の著書や推薦図書を展示する



- 令和5年度より実施
- 講義やスピノフ企画で学び得た知識を繋ぎ、統合・融合して生み出した新しい考えを、レポートやプレゼンによって表現し合い、対話を通して互いに学び合う
- 受講生や教職員が「交流テラス」に集い、楽しい雰囲気を実施する
- 対話を通して、再び新たな考えが生み出されることを期待する
- 令和5年度より実施
- 様々な履修科目や授業外の自主的な学びなどを通して構築した総合知をまとめたレポートを募集する
- 対象は両大学学生
- 文学賞方式で、両大学教職員、学生、機構アドバイザー等によって審査し、すぐれた作品、ユニークな作品等を表彰し、公開する
- 表彰作品等をもとに対話し交流する

「総合知を構築する力」をもち、それを発揮して、創造的に学校教育を変革できる教員と、日本社会のジェンダーバランスを是正できる女性リーダーを輩出し、社会のウェルビーイングに貢献する。